


銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



3月の銅の概況及び4月の見通し (3)

【住宅】

平成31年2月の住宅着工戸数は71,966戸で、前年同月比で4.2%増となった。また、季節調整済年率換算値では96.7万戸（前月比10.9%増）となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で3か月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、分譲住宅は増、貸家は減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比-3.1%の6万5,639 t。

3か月連続減少。多くの品目で輸出を中心に前年度比マイナスが目立つ。ただ、3月までの2018年度下期生産量は41万3,000トンと、前年同時期並の見込み。2019年見通しも明るい予想。

内需	5万5,116 t	-2%	2か月連続マイナス
輸出	1万523 t	-8.9%	4か月連続マイナス
銅条	2万1,609 t	-2.7%	再びマイナス
黄銅棒	1万5,406 t	-2.6%	2か月連続マイナス。

【電線】

前年比+1.8%の5万6,600 t。内訳では、国内+1.4%輸出が+15.1%。

【輸出】

電気銅輸出が+12.2%の4万4,263 t。銅スクラップが+17.9%の1万5,900 t。

【輸入】

電気銅が+0.3%の900 t。スクラップが+6.3%の1万958 t。

【見通し】

自動車は生産が+7%。国内販売台数が前年比-4.7%。生産は再びプラス。生産はプラスだが販売はマイナス今後注視。

平成31年2月の住宅着工戸数は71,996戸で、前年同月比で4.2%増となった。また、季節調整済年率換算値では96.7万戸（前月比10.9%増）となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で3か月連続の増加となっており今後期待。

伸銅品生産は前年比-3.1%の6万5,639 t、3か月連続減少。今後マイナスが続くか注視。

電線は、前年比+1.8%の5万6,600 t。
内訳では、国内+1.4%、輸出が+15.1%。
銅輸出は、製造業の内需停滞から減少。
銅輸入は、上記の理由から小幅な増加に留まった。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は大型10連休前のリスク売りや建値が再び76万まで回復したことから利益確定売りが出てくるのではないかと。

需要面に関しては足元の生産状況は変わらないが上物以外は荷余り状態。

未だメーカーの購入意欲は高くはないが慢性的な原料不足で品費の良いスクラップは需要がある。それ以外の山行や黄銅系は需要がなく飽和状態が続く。

【LME・為替予想】

今月も米中貿易戦争の動向と英国の離脱問題の動向に左右される。

米中貿易に関しては米国でもPMIの製造業指数が1年9か月ぶりの水準に下げるなど景気後退の兆候が見られることやライトハイザー米通商代表部（USTR）代表とムニューシン米財務長官が訪中し、28日に米中の閣僚級協議が再開されたこと、IMFのラガルド専務理事が「世界経済は成長の勢いがさらに失われた」と述べ、来週公表する最新見通しで今年の成長率を従来の3.5%から下方修正することを示唆したことなどを受けて米中が歩み寄る可能性が出てくるのではないかと。

英国の離脱問題に関しては、欧州連合（EU）に対し離脱交渉期限の延長を要請することを明らかにした。また、議会の膠着状態からの脱却に向け野党・労働党のコービン党首と協議する意向も示したことこちららも一旦は先延ばししたのでは？

これらを踏まえた4月の銅価格は6,400-6,600ドル（セツル）との予想。

ドル円値は110円~112円（TTM）台を予測。

銅建値に関しては750-780円程度と予測している。

【「3月の銅の概況及び4月の見通し」おわり】

亜鉛くず 現金高価買取
亜鉛ドロス・滓 ご照会をう

再生亜鉛精錬

日進産業株式会社

代表取締役 星山 えり

〒580-0006 松原市大堀1丁目7-30

TEL 0723-31-3945代表

FAX 0723-31-3974